

## 信州読書会 ツイキャス読書会

### 課題図書 チャールズ・ディケンズ『クリスマス・キャロル』

信州読書会では、毎週、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。  
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)

今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)

『ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCsgP7jtFgzqxea6cggd7mrf>

(各回の感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張ってあります。)



第 58 回のツイキャス読書会の課題図書は、チャールズ・ディケンズの『クリスマス・キャロル』です。

読書感想文を提出して下さった皆さんありがとうございます。

## 『クリスマス・キャロル』 あらすじ

マーレイの幽霊がやって来てスクルージに言った。「私が今夜ここへ来たのは、お前さんには、まだ私のような運命から逃れるチャンスと希望があるという事を知らせるためなのだ」そしてこれから三人の幽霊が現れることを告げた。マーレイが去っていった空中には幽霊が充満していて、幽霊たちはマーレイの幽霊にぶら下がっていた鎖と同じものを付けていた。彼らすべての幽霊たちは、人間の世の中の事件に関係して助力したいと願いながら、永久にその力を失ってしまっていた。

その後現れた三人の幽霊たちは、スクルージを伴って、過去や現在を行き来した。

第一の幽霊が向かったのは、過去だった。子ども時代に一人ぼっちで放課後を過ごすスクルージ自身や幼き頃の妹、奉公先の家庭舞踏会、スクルージが過去に別れた恋人、恋人が幸せになった家庭。幼少時代の懐かしさと、自らが搾取された時代、搾取する側となり心も体も奪われた過程をたどった。

第二の幽霊は、現在の、クリスマスで活気に包まれた街を通り、書記のボブの家に連れて行った。ボブ一家は、足の悪い息子ティムや家族みんなが御馳走を囲み、つつましやかでも喜びに満ちたクリスマスを迎えていた。甥のクリスマスにも立ち会った。「無知」と「欠乏」を示唆する二人の子どもたちを見た。どれも自分には無縁なようで、けれど近づきたくて、揺らぐ心を抑えきれないスクルージ。

第三の幽霊が導いたのは未来だった。自身がビジネス上関係した人の噂話、死後の自分の部屋からはぎ取った品々を売る泥棒のヤミ取引者、死を喜ぶ債務者の家、ティムを失って悼む気持ちに包まれるボブの家、そして自分の墓。

幽霊たちは教えてくれた。「生きる」のは今からでも決して遅くはないと。ベッドで目を覚ましたスクルージは、赤ん坊になった。目の前に広がるのは、ただ、「今」から始まる未来のみである。「今」をどう過ごすかがすなわち過去であることを。

(おわり)

belouga さんのブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

『アラフォーbelouga のつれづれ』 <http://ameblo.jp/clearmandarin/>

## 「悲しみを抱えて」

スクルージはたくさんの過去の悲しみを抱えた男だ。

スクルージは幼少の頃、友達から仲間はずれにされて孤独で寂しい思いをした。自分を慕ってくれた愛する妹を早くに亡くしてしまった。そして将来を約束した恋人は気持ちが離れてスクルージのもとをさってしまった。誰が悪いかなんて決められないけれど、ただ悲しみだけがスクルージの心を支配したのだと思う。

そして孤独と悲しみはいつしか周りの人への怒りにかわり周囲の人々から心を閉ざしてしまった。人から頼られても嫌味を言って遠ざけ、身近な人の親切は受け入れなかった。信じているのは人ではなくお金だった。しかしスクルージはお金持ちになっても心は自由にならず幸せになれなかった。むしろどんどん頑なになっていった。

過去 現在 未来の3人の精霊達はスクルージに気づいて欲しかったのだと思う。人生は悲しみばかりではなく愛ももらっているはずだと。

ひとりぼっちだったとき、優しい妹が迎えに来てくれたこと。奉公先での素晴らしいクリスマスの経験をしたこと。そして恋人からも愛された時代があったこと。悲しみだけでなく身近な人の愛情をスクルージはもらっていた。

そして、現在も厳しい労働条件でも勤勉に働いてくれるボブや、嫌味をいくら言っても変わらぬ明るさと優しさで接してくれるブレッドの愛情に気がついていく。

人生には辛くて悲しくて納得いかないことが山ほどある。メリークリスマスなんていいたくない時がある。外の喧騒を遮りテレビを消して目を瞑っていたい夜がある。スクルージじゃなくてもウンザリすることが人生にはあるはずだ。

未来がみえなくて絶望してる人、孤独と寂しさで心を閉ざしている人に、希望のひかりや、人の暖かさが少しでも感じられますようにと祈らずにいられない。そんな人々にこそクリスマスはあるのかもしれない。

(おわり)

## 『クリスマスおめでとう！』

毎年クリスマスを楽しみにしているクリスチャンではない私ですが、これからもクリスマスを楽しみにしたいなと思いました。

けちけちのスクルージ老人ほどの人は少ないかもそれないけど、それに近い考えの人は多いのではないかなと思いました。

スクルージはお金を稼ぐことに一生懸命すぎて他人にたいしても自分にたいしてもケチすぎて気の毒に思いました。

仕事熱心な所は良いところだと思うけど、かなりお金を稼いでいるのに、帰ったら残りのお粥を食べるなんて少し笑ってしまいました。

本当の幸せとは、誰かと分かち合える事だと思いました。

豪華な食事、高価なプレゼントがなくても、忙しくて一人で過ごさなければいけなかったとしても、誰かの幸せを願う事ができれば幸せなクリスマスになるように思いました。

「死にたい奴らは死なせたらいいさ。」などとスクルージみたいな事を言ったら怖い幽霊に連れ去られて鎖に繋がれてさまよい続けるのかと思うとぞっとしました。

普段、自分や家族以外の人の事を考える事は少ないかもしれないので、クリスマスに誰かの幸せを願う、できれば寄付をすとか、ボランティア活動でも誰かの為に何かが出来るとなればいいなと読んでいて思いました。作中に出てくるご馳走がすごく美味しそうでした。

特に小さいかもしれないけれど、すごく心を込めて作られた美味しいに決まっているプディングを私も食べてみたいなと思いました。

(おわり)

# Money Christmas

先日スーパーで100円のおにぎりとお天ぷらをいくつか買った。帰宅してから慌ただしく子供におにぎりを食べさせて、食べきれないだろうからまた夜にでも温め直して食べようと天ぷらは冷蔵庫にしまっておいた。

そして翌日になって冷蔵庫の奥に萎びたサツマイモのお天ぷらを見つけた。腐った様子はないがその日は別のおかずを作っていたので、結局それはゴミ箱に捨てた。

知りもしない農家や店で天ぷらを揚げたスーパーの店員の顔が浮かび、良心が咎めたが、萎びた天ぷらを食べ腹を壊したくなかったし、勿体無いからと食べたらそれはそれでケチと思われはしないか？

もし部屋を掃除していて、いつなくしたか分からない100円が見つかったとしても捨てることはありえない。お金は腐らないし、いつでも100円で100円の物が買える。100円のもので腹を満たしたり喉を潤おす事はできても、100円玉を飲み込んで腹を痛めはしても満腹にはならない。お金は使ってこそ価値があり、お金で買ったものをどう使うか？であろうと思っている。勿論少しずつ預金や増やす活動もしているが。

一体どこまでが儉約家で、どこからがケチなのか？

通り過ぎる人も空気も凍てつくほどスクルージが冷たい守銭奴になったのは何故か？ 過去の精霊が見せたものから察するに、幼少時に父親から虐待を受けていたからか。若い頃働いていた料理店のオーナーがブラックで、こき使われ心身をすり減らしたのか。「あなたは変わった」と恋人に捨てられたからか。

もしスクルージがマーリーの亡霊に会わずにいたら、貯め込んだ金はどう使うつもりだったのか？

彼は高級アパートに住むでもなく、毎晩ご馳走を食べるでもないようだ。

松本人志さんは高額所得者は高額納税者であるとツイートし、過去には著書の中で自分で稼いだ金をなぜろくな使い道をされない税金に持っていかれなくてはならないのか？ と嘆いていた。

この松本さんの気持ちは理解できるが、課税逃れをする富裕層達はどうにも許し難い。

過去、現在、未来の精霊と出会い、トリクルダウンではなく直接貧しい人や足の悪い子供の為にお金を使ったスクルージにかわり、インスタ映えするシャンパンタワーの前でウェイウェイ「イキってる」方々に最後にこの言葉を贈ります。

クリスマス、何がめでたい  
新年、おとといきやがれ

(おわり)

## 伸ばした腕の先にあるもの

何年か前、はじめてインドへ旅行に行ったときのこと。

アーグラという町は世界一の観光名所で、同時に世界一評判が悪い。  
タージ・マハルがあるこの町には、世界中から観光客が集まるのだが、インド中から物乞いも集まる。

たくさんのスリ、ひったくり、押し売り。所かまわず捨てられるゴミ、なにかの動物の死骸。悪臭と騒音。  
かつて体験したことのない複雑怪奇な喧噪に囲まれて、混沌とした景色の理由をすぐには理解できないし処理もできない。

移動していた観光バスから降りるとき、ガイドさんは言った。  
「決して子どもや物乞いにお金を見せてはいけない。見せた途端にすべてを奪われる」と。

ヒンズーであれ、キリストであれ、  
恵まれない人に手を差し伸べよと説いているはずなのに、  
差し伸べては危険に冒されるという現実がある。  
この日、ただの日本人観光客である自分にはなにもできなかった。

資本主義が行き着いた結果、そのひずみは世界のあちこちで起きていて  
貧困層と富裕層の格差は、広がるばかりだ。  
キレイゴトが通じない国のことを、神さまはどう説明してくれるのだろう。

というようなことを思い出した。

ディケンズが書いたクリスマスの夜の物語は、  
資本主義のために忘れてしまいそうになる  
キリストの精神だったと思う。  
エゴと引き替えにした隣人愛とも言える。

3人のゴーストが現代に現れたとして、スクルージのような人間に見せるべきものは、世界規模での資本主義の  
在り方。  
一部の人間だけが豊かになる一方、増幅する貧困をどう救済すべきなのかという複雑な問題。

名も知らぬインドの少年が「10ルピーおくれ」と伸ばした腕の先に渡すものは、その場しのぎのお金ではない。  
まっとうな生活に加えて、なによりも教育が必要なのだと、今なら冷静に思う。

だとしたら、子ども達へのクリスマスプレゼントも、おもちゃじゃなく本がいいのでは。  
やるべきことはたくさんあるけれど、まずは手近なところからはじめてみるかな。

今年のクリスマスは、姪っ子になにか一冊贈ろう。

『クリスマス・キャロル』がいいかもしれない。

(おわり)

## 「おさなごをとりにて、彼らの中に置く」

人間は、時間と空間という鎖に縛られている。マーレイの幽霊が、スクルージを『世俗一点張りの男よ！』と哀れんだのは、現世の時間と空間の鎖に縛られた考え方しかできない、頭の硬さを非難したのである。スクルージは、自己正当化という鎖によって、己の縛って生き抜いてきた。「これは生きている時に自分で作った鎖なんだ。それに今つながれているんだ」とマーレイはいう。自己正当化の鎖は、死後もその重みを増していく。

(引用はじめ)

「人間よ、もしお前の心が石でなく人間なら、余計とは何であるか、どこに余計なるものがあるのかをはっきりわかまえるまでは、この悪い文句をさしひかえるがよい」

(引用おわり)

愛は、頭の中にしか存在しないが、それが人間の世界そのものを支えている。スクルージのように、役に立たないものは余計だという、徹底した合理主義は、やがて人類を破滅させてしまう。

ボブの家族のXmasケーキであるプディングは、量からすれば、この家族にはやや足りなかったかもしれない。足の悪いティム坊がいるから足りなかったのかもしれない。しかし、余計者のティム坊がいなくなれば、プディングの分前が、ちょうど間に合って合理的であると、ふと感じてしまうとしたら、残酷なことだ。この残酷こそが貧困の悲しさだ。

プディングを足りなくしているのは、本当は誰なのだ？

(引用はじめ)

「どんな人間を生かし、どんな人間を死なせるかお前に決められると言うのか。神の眼にはこの貧しい男の子供何百万人よりお前のような人間こそ生きていく値打ちもなければ、生かしておくにはふさわしくもないのだぞ。おお、神様！草の上の虫けらが、塵の中で空腹にうごめく同胞たちの間に生命が多すぎるなどによくも言えたものだ！」

(引用おわり)

世俗の富を独占するものは、同時に貧困を生み出している。プディングが足りないのは、スクルージの頭の中に愛がないからである。ティム坊が、貧しさで死ねば、やがてスクルージの生き抜いた世俗そのものが無の中に消えていく。

愛のなかこそ、人間の生きるべき世界が立ち現れてくる。

(おわり)



『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=714](http://bookclub.tokyo/?page_id=714)  
今後のツイキャス読書会の予定です。 [http://bookclub.tokyo/?page\\_id=2343](http://bookclub.tokyo/?page_id=2343)